

---

# 英雄伝説 悪魔の軌跡

シャチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

英雄伝説 悪魔の軌跡

### 【Nコード】

N9025Y

### 【作者名】

シャチ

### 【あらすじ】

気づいたら死んでいた！？転生！？じゃあブロリーで！！普通の大学生がブロリーとなって空の軌跡を破壊しつくすお話です。

## プロローグ（前書き）

はじめまして。シャチです。

この作品は処女作品なので

見苦しいところがあると思いますが  
どうか温かい目で読んで下さい。

## プロローグ

「……………飲酒運転による事故発生率が過去最悪であり……………」  
「物騒だねえ……………」

彼は普通の大学生。普通の小学校、中学校、高校と進級していき、今年の春ついに大学生となった。ただやはり難関大学と呼ばれるところには進学できるわけもなく、地元の中レベルの私立大学へ進学することとなった。平々凡々、その言葉が彼にはよく似合う。

「大学に入ったところで変わったこともないなあ……………」

彼はただ漠然に大学に進学することだけを目標に努力してきたのでいざ進学してしまった今、目標は失われていたのである。

「……………そろそろ時間か……………はあ……………」

ため息をつき彼は立ち上がり、玄関へと向かった。

そして扉を開け外に出た瞬間目の前にトラックが現れ、彼の意識は無くなった。

「……………何処だこころ……………」

気がついたら彼は真つ白な空間で横になっていた。俺は玄関の扉を開けたただけだぞ、と彼は不思議に思い、立ち上がって辺りを見回してみる。

「気がついたようだな。」

その声には彼は驚き後ろを振り返ってみる。そこには白いロープをまとった、地にまで届く白いひげを蓄えたいかにも威厳のありそうな老人が佇んでいた。

「誰だオッサン。」

「オッサ・・・、コホン、単刀直入に言おう。ワシは神じゃ。」

神？気でも狂ってるのか？と思うが辺りは白い空間、そして直前のトラックの記憶。まさか、と彼は思う。

「もしかして・・・、俺って死んだ？」

「その通り、よく分かったな。お前は死んでしまったのじゃ。」

即答。その言葉を聞いた瞬間彼はまた倒れそうになった。だが彼は何とか持ち直し神と名乗る老人に一つの質問を試してみる。

「俺は・・・何で死んだんだ？」

「ふむ、お前の記憶は扉を開けたところで終わっているはずじゃ。扉を開けた瞬間、酔ったアホが運転するトラックが突っ込んできてお前と衝突したわけじゃな。」

まさか自分が飲酒運転の餌食となるとは・・・。彼は落胆するが言葉は続く。

「そもそもお前は奇跡的に助かるはずだったんじゃが・・・、ワシが居眠りをしている間に弟子が確率にイタズラをしてな、君と衝突してしまっただんじゃ。」

「オイオイ、そりゃ悪魔じゃないか・・・」

そんな弟子がいてたまるか。彼は怒りをあらわにする。

「ま、まあそれは由々しき事態じゃ。もちろん弟子は処罰した。そして君が不憫すぎるのでお詫びといっでは何だが・・・転生する気はないか？」

「転生？」

彼は聞きなれない言葉にキョトンとする。

「そつだ転生じゃ。君の知っている世界に君の要求する状態で転生させてあげよう。」

「ほ、本当か・・・」

「ただし要求は5つまでじゃ。さすがに10も20も叶えてあげる事はできない。」

彼は喜んだ。死んでしまったがそのおかげで平凡な人生から脱出できるのだ。

「じゃあ俺をブロリーにしてくれ！身長は・・・でかすぎると嫌だし190ぐらいまでにしてくれ。」

「ぶ、ブロリーじゃと！？悟空や悟飯ではなく？」

「ああ、俺はブロリーのほうが好きなんだ。カッコいいしな。あの力にはあこがれるだろう。」

「むう・・・、分かった。容姿はブロリーにしてあげよう。」

彼は嬉々と話す。が、

「能力はオポジションじゃぞ。」

「なんだと・・・じゃあしょうがないな。劇中以上の能力、戦闘力をつけてくれ。」

「いいじゃろう。これで2つじゃ・・・言い忘れたがこのままではスーパーサイヤ人にはなれんぞ。」

「まじかよ・・・」

制限の多い神様だと思うがブロリーの能力は規格外。それも仕方がないと納得？する。

「じゃあ今発表されてる。ブロリーのスーパーサイヤ人、通常のスーパーサイヤ人、伝説化、そして3になれるようにしてくれ。あと・・・できるなら4にもなれるようにしてくれ。」

一度はブロリーのスーパーサイヤ人4を見てみたい（なるのは自分だが）。そう頼んだところ、

「まあ、いいだろう。ただしいきなりなられては向こうの世界が崩壊するかもしれん・・・。だから少し制限をかけよう。」

「崩壊って・・・、さつきから制限の多い神様だな。」

「そう言うな。そうじゃな、今言った前3つはきっかけを見つけたらなれるようにしよう。」

「きっかけ？」

「そうじゃ。ブロリーにしても悟空にしてもきっかけがあってなれるようになった。さすがに君もいきなりなれるようにすることはできない。だがそのきっかけを見つけたら通常に伝説にも3にもなれるようにしよう。4には・・・自分で努力してくれ。」

なれることは保障されたようだ。

「これで要求は何個叶えられることになるんだ？」

「そうじゃな、スーパーサイヤ人の部分はなんとかしよう。これで3つじゃ。つまりあと2つというわけじゃな。」

「あと2つか……。そういえば俺がなるブロリーは手加減ができるの？」

劇中のブロリーは「手加減って何だ？」と言っていた。まさかとは思うが……

「出来ないな。それもオプシオンじゃ。」

「やっぱりなあ……。しょうがない日常生活や普通のコミュニケーションが出来るぐらい手加減できるようにしてくれ。あと頭脳、頭を良くしてくれ。」

「ふむ、了解した。これで5つじゃ。変更は無いな？」

「ああ。」

返事をする神様？は後ろに振り返り、何かコソコソとし始めた。転生の準備でもしているのか？

「そういえば俺は何処の世界に転生するんだ？」

「そうじゃな……。空の軌跡の世界にでもどうじゃ？」

空の軌跡、彼がよく好んでプレイしたゲームである。

「は、早く転生してくれ！待ちきない！」

「そう急かすな……。そうじゃ原作知識とお前の個人情報の記憶は消去しておくぞ。」

「ちょ、そりゃまんまブロー」

「よし、転生じゃー」

こうして彼ことブローリーは空の軌跡の世界で転生するのであった。

## ブログ（後書き）

さすがに難しいですね・・・

転生話だけでこんなに長くなってしまいました。

さてブローリーとなった彼はどんな行動をとるのでしょうか。

ほぼチートですが原作崩壊はあんまりしません。

あと更新はゆっくりとなると思います。

ご承知ください・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9025y/>

---

英雄伝説 悪魔の軌跡

2011年11月27日00時50分発行